



外国出張報告書

平成 26 年 5 月 26 日

1. 出張国名 ラオス、タイ
2. 出張月 平成 26 年 4～5 月
3. 出張目的 水田域の生物多様性に関する現地調査：C

4. 成果の概要

ラオス農村水田域の植生と利用実態の概要について、昨年雨季の調査に引き続き、乾季の調査を行った。その結果、植生については、雨季とは大きく異なり、イネ科植物主体の非常に単純な植生であることが判明した。利用性については、雨季と同程度に多様な利用性が確認された。しかし、住民の聞き取りでは、乾季の水田植物の利用頻度は、雨季に比べて少ないことが明らかになった。一方、乾季水田は水牛や牛の放牧地として利用されており、そこで落ちた牛糞が住民の食料として重要な昆虫の生育地を生み出していることがわかった。

植物種の同定に関して、調査時に植物体の写真を撮影して同定の資料とし、タイ国農業省農務局植物保護調査開発事務所にて専門家と、同定作業について打合せを行った。